

理想の教育

教育長 千葉仁一



弁された。

「市長、教育長が考える理想の教育についてお聞かせください」
令和三年六月市議会で、大谷陽介議員から、岐阜市の不登校特例校の様子などの紹介の後、教育理念にかかわるこのような質問をいただいた。

市長は「本市では、教育振興基本計画において、目指す市民像として『多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人』を掲げておりますが、この市民像を、全ての市民に具現化していくことこそが、盛岡市にとって理想の教育であると考えております」と答

私は、「教育の営みを通して、子どもたち一人一人に、自己肯定感を育み、夢や目標を持って社会に出て働き、自分の力で生きていくことができるようにすること、そして、その過程において、子どもへの興味・関心や学習のペース等、一人一人の子どもの特性に応じた多様な学びを保障することが、理想の教育であると考えております。また、平成二十七年開催の国連サミットにおいて採択された『持続可能な開発目標』の理念である『誰一人として取り残さない』は、教育において根底におくべきものと存じております」と答弁した。

ポイントは、「全ての」であり、「二人一人の子どもの特性に応じた」であり、「誰一人として取り残さない」である。このことが実現されて初めて「理想の教育」が可能になると思う。

もちろん、この理想の実現のためには様々な課題があり、一朝一夕にはできるものではないが、次代

を担う子どもたちのために、その実現を目指していかなければならないと、改めて思う。
東洋思想研究家の安岡正篤先生は「太陽に浴さなければ、物が育たないのと同じことで、人間の理想精神というものは心の太陽なのだ。これがないと、人間のあらゆる徳が発達せず、才知芸能も発達しない」と述べている。(安岡正秦監修「安岡正篤一日一言」致知出版社)

た時のことである。教科調査官の嶋野先生が、生活科の趣旨や指導の在り方等について講演され、その最後に「教育は未来です。教育は希望です。教育はロマンです」と話された。この言葉を聞いた時の感動は、今でも忘れられない。この言葉は、まさに「理想の教育」につながるものであると思う。

常に、「理想の教育」を求め続け、その実現を目指していくことが、教育実践の原動力となるのではないだろうか。

こずかた写真館④ いきいきスクール in 区界高原

火起こし体験の様子です。この後、起こした火でカレーを作りました。あいにくの雨天でしたが、参加者全員で楽しむことができました。

